

特定非営利活動法人 中部リサイクル運動市民の会

「五位一体」で進める循環型社会

市民が無理なく参加できる仕組みづくり



市民の会発足間もない1981年、街中を歩き、空き缶回収を呼び掛ける代表（現・理事）の萩原さん（写真中央）

名古屋市内全域に資源回収拠点を設け、循環型社会づくりに取り組む「特定非営利活動法人中部リサイクル運動市民の会」（以下「市民の会」）。「リサイクル」という言葉もまだ辞書になかった1980年、「できることから始めよう」と有志が集まり空き缶回収を始めました。地道な活動を支えてきたのは、市民や企業などとのパートナーシップです。

「リサイクル」から「リユース」中心のライフスタイルへ

名古屋市では1999年の「ごみ非常事態宣言（＊）」以降、市民や行政、企業、NPOの協働の下でリサイクル活動が進められ、その後10年間で約37%の減量（ごみ処理量）を達成しました。2005年には愛知万博も開催され、市民の環境意識が徐々に高まる中、次に求められたのは、家庭から出る不用品を地域で循環させる「リユース」への取組でした。

市民の会では2009年に、1991年から開設している資源回収拠点「リサイクルステーション」に地域循環拠点「リユースステーション」を併設しました。現在は、市内44か所の「リユース&リサイクルステーション」を運営するほか、2010年と11年には、週末でも持ち込みができる常設の拠点「エコロジーセンターRe☆創庫」をオープンし、資源のリユースを進めています。「目指したのは誰もが

参加できる仕組みづくりです」と語るのは、代表理事の一人、永田秀和さんです。

「既存のリサイクルシステムを活用することで、これまでリサイクルに積極的に取り組んできた方がスムーズにリユースに参加できます。その拠点となるステーションの運営では、2009年度からの地球環境基金の助成を役立てることができました。最近では、『リユースとリサイクルの違いは？』『どのようなものがリユースで



エコロジーセンター「Re☆創庫 春日井」の店内。月平均で約1800人の利用があり、22.5トンの資源回収量、60万円（資源売却益とリユース品の売上げの合計）の売上げがある

「五位一体」で進めるリユースしやすい環境

「五位一体」です。市民・企業・行政・メディア・NPOの5つのセクターが、パートナーシップで活動を進めています。

市民の会が活動方針としているのが「五位一体」です。市民・企業・行政・メディア・NPOの5つのセクターが、パートナーシップで活動を進めています。

リユース&リサイクルステーションでは、「市民リサイクラー」と呼ばれるボランティア60人が交代で活動しています。主に50代、60代の主婦で、市民が持ち寄る資源の受け入れを担当します。ステーションが開設されるのはスーパーの駐車場で、スーパーにお願いし、場所を提供してもらいます。買

＊名古屋「ごみ非常事態宣言」：20世紀中（2年間）で20%、20万トンのごみ減量を目標に、家庭系ごみでは、びん・缶収集の全市拡大、集団資源回収などへの助成強化、プラスチック製・紙製容器包装の資源収集開始を実施した。



▲上：リユース&リサイクルステーションでは、リユース可能な古着、本、なべ・やかん類、陶磁器食器などを寄付してもらい、必要な人に無料または有料で提供する。2010年度は47会場で1344回開設。3297トンの資源回収量があった。下：ステーションは環境教育の場としても活用されており、多くの小中学生が見学に訪れる



▲折込みチラシ

い物ついでにステーションを利用してもらうためです。

「ステーションでは、市民からの問い合わせに市民リサイクラーがその場でアドバイスするなど、利用者とのふれあいがあります。なじみの利用者との談笑も、互いにとつての楽しみになっているようで、これも資源を出しやすい環境づくりといえます。市民の会が回収できる資源量は市全体の1%にすぎませんが、利用者と市民リサイクラーとのこうした

関係は、活動を進める上で欠かせない要素といえます」（永田さん）

市民の会では、自前で発行するチラシのほか、地元の中日新聞への折込み広告でリユース・リサイクルを呼び掛けています。広告の制作や折込みに掛かる費用は、中日新聞の販売店などで組織される名古屋リサイクル推進協議会により賄われています。ステーション開設日の前日に折り込まれる広告の効果で、回収率は上昇しているといえます。

パートナー継続に向け 常に活動を見直す

パートナーシップとは、「互いが自立し、双方にとって必要な存在であることを常に示すこと」と語るのは、市民の会発足時の代表で、

企業との交渉に当たってきた理事の萩原喜之さん。

「地球環境に対する社会の意識がまだまだ醸成されていない時代は、今の社会にはないものを自分たちでつくっていくんだという考えで、活動を更



キリンビール株式会社と協働で実施している工場見学ツアーでの環境授業

社会の様々な構成員と一緒に行動することも重要です」

中部電力株式会社との協働による「記念日植樹券プレゼント」事業では、植樹券の当選者がコナラなどの苗木を自分や家族に贈ったり、緑化活動に取り組み国内外のNPOに寄付したりできます。10年間で5万5千人を超える方々と、累計22万本の木を植えました。

親子を対象にキリンビール株式会社と協働開催している工場見学ツアーでは、キリンビール名古屋工場内のエコ活動を見学するバスツアーと合わせて、市民の会が企画した地球温暖化防止がテーマの環境授業を行い、家庭でできる省エネを紹介しています。

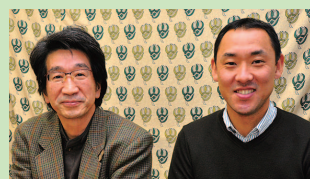
「キリンビールさんからはスポンサーとしてご協力をいただいています。現在では一緒に事業を行い、文字どおりパートナーとしての関係が続け

ています。継続して支援をいただく場合でも、事業の先進性を常に示すなど、活動の意義を認めてもらうための努力が欠かせません」（永田さん）

企業による地域貢献への関心の高まりから、今ではスパー側から設置の申し出もくるようになったというリユース&リサイクルステーション。市民の会では今後、より効率的にリユース・リサイクルを行うため、家庭での資源の仕分け方をリサイクラーから市民に伝えるとともに、常設の拠点づくりを更に進めていきます。

特定非営利活動法人 中部リサイクル運動市民の会

〒460-0014 愛知県名古屋市中区富士見町9-16 有信ビル2階
<http://www.es-net.jp/>



代表理事の永田秀和さん（右）と市民の会発足時の代表で、現在理事を務める萩原喜之さん（左）

リユース&リサイクルシステムづくりのほか、環境に配慮したまちづくりを目的とした自治体における人材育成プログラムや環境計画づくり、環境学習施設運営のサポート、次代を担う人材育成を目的とした環境学習プログラムの企画・運営、小中学校での出前授業などを手掛ける。